

令和4年度 岐阜県生涯学習・社会教育総合推進研修会 開催概要

1 日 時

令和4年11月16日（水） 14:00～16:00 オンライン開催

2 開催概要

生涯学習・社会教育の推進のため、市町村担当職員や公民館・生涯学習施設職員、地域団体、NPO・ボランティア団体、大学等高等教育機関、民間教育事業者、企業等の代表者を対象に、各主体間の連携を図ることを目的とした総合推進研修会を開催しました。

今年度は「子どもを核とした地域づくり」をテーマに開催し、社会教育士3名によるパネルディスカッションを実施しました。

3 プログラム

(1) 岐阜県の生涯学習・社会教育振興施策について（県担当者）

(2) パネルディスカッション「子どもを核とした地域づくり

～つながり、つなげる、地域づくりを担う人材とともに～

【パネラー】	(公財) 岐阜市教育文化振興事業団	桐木 博俊 氏
	前岐南町中央公民館社会教育主事	杉山 善朗 氏
	安八町立結小学校教諭	中原真奈美 氏
【ファシリテーター】	環境生活政策課生涯学習企画監	石井 幹也

○ (公財) 岐阜市教育文化振興事業団 桐木 博俊 氏

・生涯学習施設における実践事例

学生ボランティアを活用した、地域における人と人とのつながりを紡ぎ出す活動を展開。子どもや地域住民の活動拠点としての社会教育施設の運営を推進している。活動を通して、役割を果たす喜びや多世代交流による居場所づくりが地域の活性化につながっている。

○前 岐南町中央公民館社会教育主事 杉山 善朗 氏

・社会教育主事の立場から

あるもの活かしによる子どもと地域住民が積極的に関わることができる仕組みづくりを展開している。今あるものをデザインし直すことで多くの人がかかわる機会を増やし、地域の方のやりがい・生きがいを創出することにつながっている。

○安八町立結小学校教諭 中原 真奈美 氏

・地域とともにある学校づくり

学校における「防災教室」や「絵本読み聞かせ」など、地域人材を生かした地域学校協働活動を展開している。「どんな地域にしたいのか」「どんな子どもを育みたいか」の思いを共有し、人とのつながりを大切にしたい人づくり・地域づくりを推進している。



▲配信会場の様子



▲パネルディスカッションの様子1



▲パネルディスカッションの様子2



▲パネルディスカッションの様子3

4 出席者

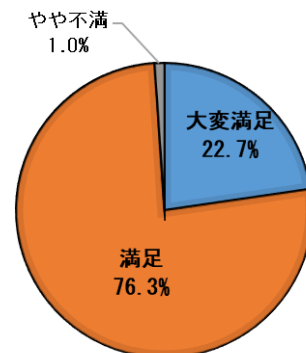
参加者	人数
県関係者（主催者除く）	8
市町村職員、社会教育委員	110
公民館・生涯学習施設職員	18
学校関係者	11
民間企業等関係者	2
地域団体、NPO・ボランティア団体関係者、一般	20
生涯学習コーディネーター、コミュニティ診断士、生涯学習審議会委員	6
合計	175

5 出席者アンケート結果 (97名回答)

※ 構成比の数値は小数点以下第2位を四捨五入しています。

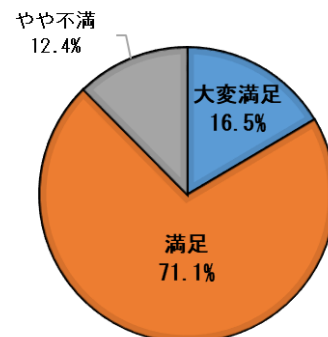
【質問1】「子どもを核とした地域づくり」について、
内容はどうでしたか。

大変満足	22人(22.7%)
満足	74人(76.3%)
やや不満	1人(1.0%)
不満	0人(0.0%)



【質問2】「パネルディスカッション」の
実施形式はいかがでしたか。

大変満足	16人(16.5%)
満足	69人(71.1%)
やや不満	12人(12.4%)
不満	0人(0.0%)



※やや不満の回答には音声に関するもの(5)を含む

【感想等】

- ・学校、行政、事業団からの違う立場から、「子どもを核とした地域づくり」について具体的な実践を紹介していただき、とても参考になりました。
- ・子どもに軸足をおき、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の両面からの実践を積み重ねていくことで、地域の教育力の向上につながると感じました。
- ・地域学校協働活動を意識しつつ地域や学校との連携をいかに図るかが具体的で参考になりました。
- ・無理なくあるもの生かしをしていくこと、課題を明確にして工夫して実践していく事など実践を通して分かりやすく提案していただきました。
- ・多くの団体や組織と連携しながら進めることの重要性も感じ取ることができました。
- ・難しいこともありながらも、まずはご自分ができることに、前向きに、願いをもって、時には楽しみながら取り組まれていることに感銘を受けました。
- ・一番学んだことは、「熱意」です。小さいことから、いまの自分で始められそうなことを考えてみます。
- ・3人のパネラーの方が、各々実際に体験された事を具体的に紹介され、子どもを核とした地域づくりが大変身近に思えました。同時に人とのつながりの重要性を実感しました。
- ・事例紹介だけでなく、活動の意義や課題が明らかにされ、参考になりました。

【改善点】

- ・テーマを焦点化してほしいとの要望については、ニーズを捉え、全参加者にわかりやすく示すよう努める。
- ・質疑応答の時間を確保し、視聴者が参加できるよう努める。
- ・音声に関しては、最新の情報機器の活用や配信方法を検討する。